

# Structure Kansai No 19 '87.9

## 「支部運営及び広報のアンケート調査結果」

広報委員会

構造家懇談会関西支部発足後5年になり、年4回発行の支部広報誌Structure Kansaiも、最近はやや遅れ気味ですが19号を、数えました。そこで5年目の区切りとしましては支部の運営及び広報に対する意見・要望をまとめ、今後の活動に反映させたく今回アンケート調査を行いました。アンケートは支部会員総数177人に対し行い、回答者88人で回収率は約50%になりました。

以下はその調査結果のまとめです。

### ●会員の平均的なプロフィール

年齢は40代で、大阪市内の設計事務所又は施工会社に勤務し、構造設計に20年以上従事している人が平均的なプロフィールです。

### ●入会理由

人的交流、技術交流、社会的地位向上のための大半で、今、構造家は外に目を向けてゆく必要性を感じているようです。

### ●支部諸会議への参加度

アンケートを寄せた会員の大半は何らかの会議、会合に参加したことがあるものの、技術分科会については、忙しい、案内がない、参加方法がわからないなどの理由で、参加希望を持ちながら参加していない人が半数います。これは、分科会運営の広報、年間スケジュール等をもっと参加しやすいものにする必要があるといえます。

### ●講演会、講習会、見学会

テーマについては、やはり最先端技術

情報に関する要望が多くありました。

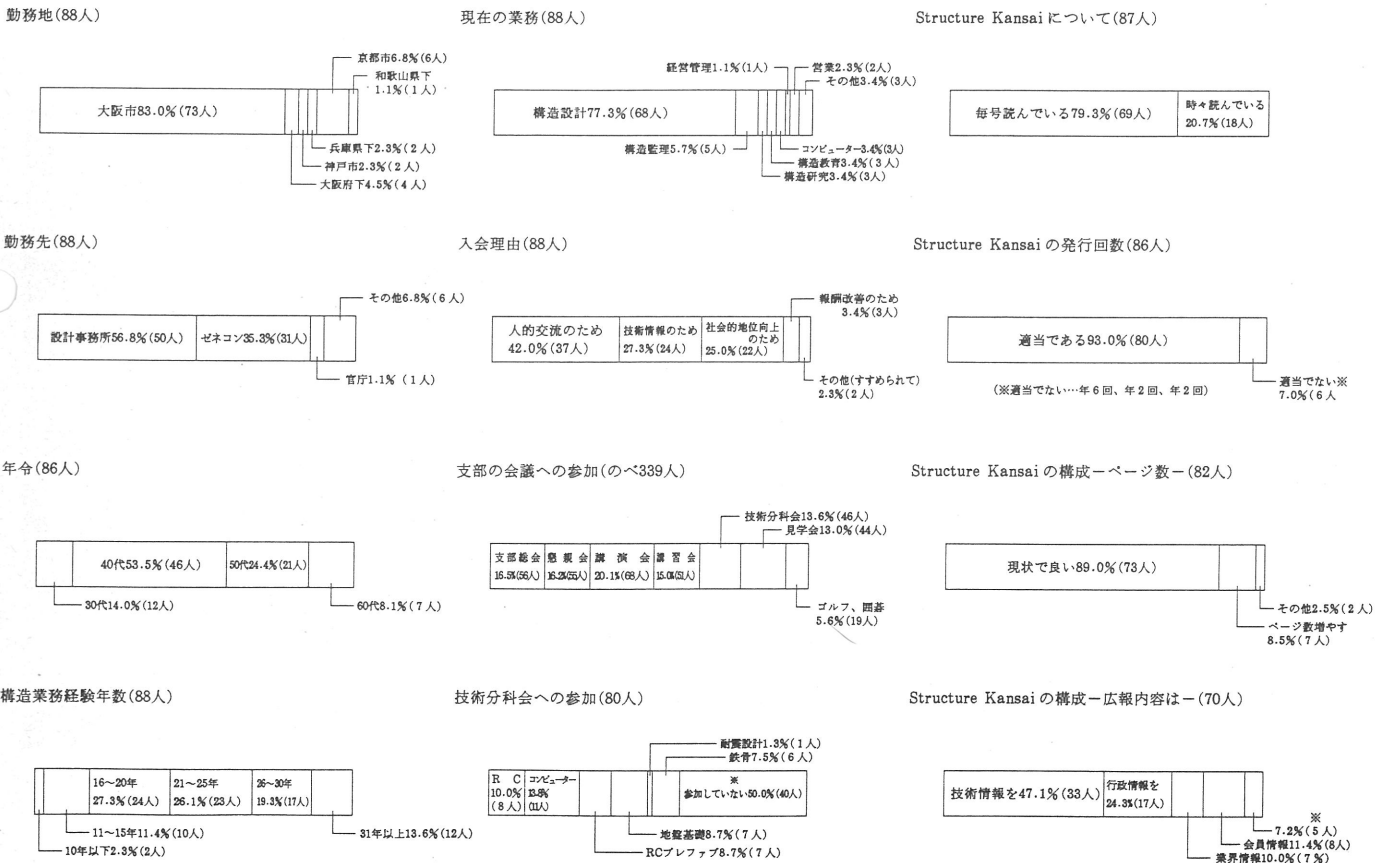
### ●その他支部運営について

広報及びPRをより活発にしてほしいという声が多く見受けられました。

### ●Structure Kansaiについて

ほとんどの人が毎号かかさずよく読んでおり、発行回数、ページ数、内容共に適当であるとしています。又、これからの誌面に対する要望は、より多くの技術情報をという声が強くなりましたが、支部運営として講演会、講習会、見学会、技術分科会を充実させ、それらの広報、概要をStructure Kansaiで正確に早く会員に伝達することが大切のようです。

## アンケート回収結果。回収人数88人（回収率約50%）



読売テレビ放送新社屋新築工事

日建設計 原 克 巳

本建物は大阪ビジネスパーク(O.B.P)地区内の一面に計画された地下2階、地上14階、塔屋2階のテレビ放送施設を有する自社ビルである。建物の低層部分には、報道スタジオ(地下1階)、エントランスホール、ロビー(1階)、No.1~No.3の放送スタジオ(2階)、副調整室(3階)、主調整室(4階)、編集室(5階)等、主として放送関係施設が設けられており、高層部分には10階の食堂、厨房を除き、ほぼ全館にわたって事務室が設けられている。なお最上部にはパラポランテナ等からなる工作物が設置されている。

低層部分の放送関係諸施設は、剛性と耐力が高く、かつ遮音性の良い構造が要求され、高層部分の事務室部分は象徴性のあるタワーとして計画することが要求された。このため高層部分は鉄骨造とし軽量化を図り、低層部分は鉄骨鉄筋コンクリート造とし、高層部と低層部が接続

した4階以下部分の構造は耐震壁を主体とした非常に剛性の高いものとした。

高層部の5階以上は、鉄骨造ラーメン架構とし、図-1に示すように2本の半円シリンダー状コア廻りに柱を配し、この2つのコアの間に大梁を架け渡す事により、スパン25mの無柱空間を形成している。なお2方向曲げを受ける柱は遠心力铸造鋼管または箱型断面柱とした。高層部の4階以下は柱の建つコア廻りに厚さ500mmの鉄筋コンクリート壁を配し、半円筒形のシャフト架構とした。

低層棟の架構はX、Y両方向共耐力壁を配し、上階からのせん断力を受けもつとともに振れ変形が小さくなるようにした。なお、高層部と低層部の接続する位置は、接続する平面部分が大きく低層部の耐力壁の多い5階床位置とし、この部分の床を補強し、力の伝達を円滑になるように計画した。(図-2)

建物概要

建築主	読売テレビ放送株式会社
建築場所	大阪市東区城見2丁目2 (O.B.P内)
敷地面積	8264.50㎡
建築面積	4893.79㎡
延床面積	29702.79㎡
建物規模	地下2階、地上14階、塔屋2階
構造種別	高層部6階以上 S造 低層部5階以下 SRC造
高さ	最高部高さ(工作物)77.37m 建物高さ 63.77m 軒高 62.97m 基礎深さ GL-8.73m
地業	場所打ちコンクリートぐい
外表	高層部 プレキャストコンクリートパネルフッ素樹脂塗装及び金属板アルミサッシ 低層部 鉄筋コンクリート造壁板フッ素樹脂塗装

設計	日建設計 鹿島建設㈱
監理	日建設計
施工	鹿島建設㈱
工期	昭和61年4月~昭和63年4月

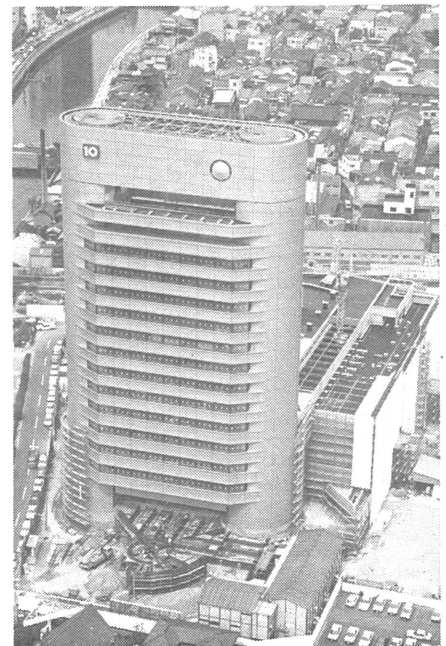
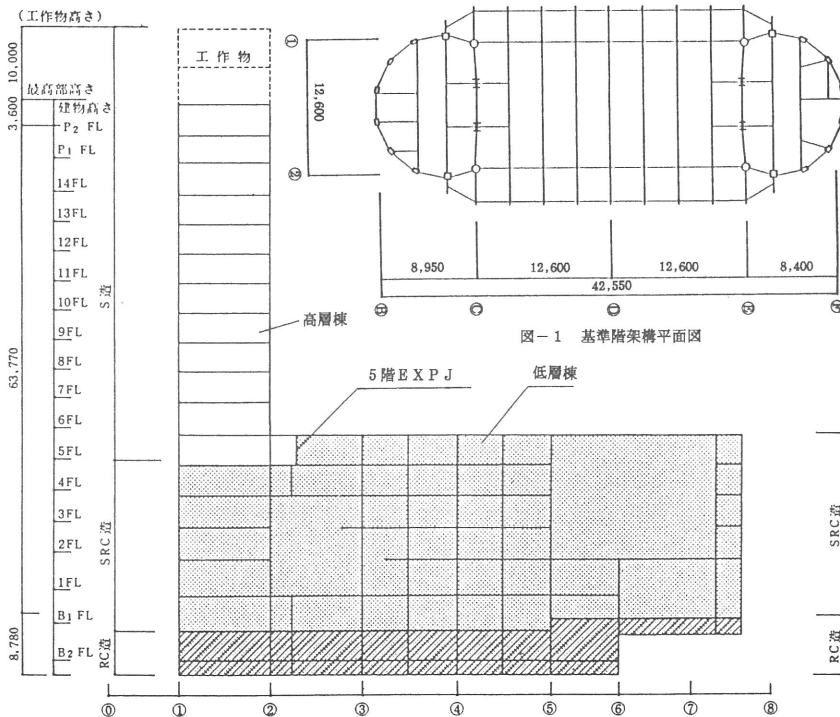


図-2 架構図

●支部の動き

- ・4/8 広報委員会
- ・5/13 広報委員会
- ・9/8 広報委員会
- ・技術委員会分科会活動  
鉄骨-4/15、6/10、9/16  
RC-9/2  
PC-5/18、7/24  
基礎-5/19、6/29  
コンピューター5/26
- ・現場見学会  
6/6 瀬戸大橋架橋記念館  
設計・監理 東畑建築事務所  
施工 フジタ工業 PC部施工 フドウ建研
- ・本四小島・坂出ルート櫃石島高架橋  
本州四国連絡橋公団第二建設局  
ピーエス・オリエンタル・ドービー・ピーシー橋梁共同企業体  
参加者 41名(中国支部、関西PC研究会と共催)
- ・9/5 後楽園エアードーム  
「BIG EGG」  
設計・監理 日建設計、竹中工務店  
施工 竹中工務店  
参加者 20名

●事務局よりのお知らせ

講演会を開催します。奮ってご参加下さい。  
日時 昭和62年10月21日14:00~17:00  
場所 北浜ビジネス会館  
題目 アメリカ建築事情と木造建築の実情  
講師 JACK INOUE氏(SHAPIRO OKINO MOM & ASSOCIATES)

第2回囲碁同好会開催についての御案内

第2回囲碁同好会は11月28日(土)に昨年と同じく、大阪駅前第3ビル・囲碁サロン「爛柯」において、PM.1:00から行ないたいと思います。前回出席の方、又、今回参加してみようと思われる方、奮って御参加下さい。

尚、第1回囲碁同好会は昨年11月29日(土)上記の場所において開催致しました。晩秋の候、暑からず寒からず、爽やかな日和の中で参加者申込15名(内3名欠席)和気あいあいとし、トーナメント方式で始められました。1人45分の持時間、手合時討使用は、初めてという方が大半で



道

大西孝夫

「道」は人間の創ったもっとも偉大なもの一つである。文化というものが、経験の記憶と記録に始まるとすれば「道」はその根元的なものであろう。

あらゆる道は数千年の人間の歴史と共に発展して来た。我々人間の生活の場を設定しながら人と人、物と物を結びつけ、生命を支え、喜びや悲しみを伝えて、時には時代を変える事件の舞台にもなった。

アッピア街道、マラソンの道、シルクロード、東海道、太陽の道、そして露路や陽の当る坂道……。

現代の道路がいろいろの形で人間の生活をさらに広げる役割を爆発的になし遂げて来たことは確かであるが、同時に歴史の危機的側面を暗示しているようでもある。

代表的な現代の道—高架高速道路の経済効果、合目的性は認められるものゝ、都市の中では怪物よりも醜い。

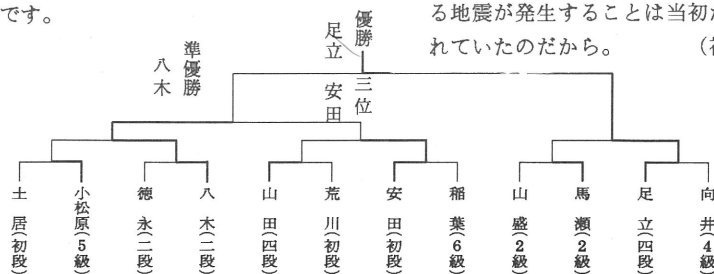
人間の栄光のシンボルであった都市、歴史と文化を支えて来た「道」はどうなったのであろうか。

一見無機質な道であるような古代ローマの水道橋が尚美しいのは何故だろうか、廃虚であるが故の美しさだけではないように思われる。

人間の心、精神への奉仕、真に愛しいものへの憧憬をもって創られたものが、今尚、我々に感動を与えている。どうも経済や技術やコンピューターに全てを委ねてしまう訳にはいかない。

さて、建築をつくり、構造を計画するものにとって「道」は、「剣の道」のように深く深い。(日建設計)

したが、いざ手合が始まると仕事で鍛え抜いた強者同志、時間切れ負けの方は1人もなく激戦につく激戦、その気力、棋力に感心しました。以下成績は次の通りです。



ショートショート

金谷 弘

K氏(彼はこう呼ばれるのが好きである)がそれに気付いたのは寝不足のせいと言える。何しろ、CDセンサーのオレンジ信号を黄色と判断してしまい、大あわてですべてのデータをチェックしたのがその異常確認のキッカケであったのだから。

K氏は、直ちに、それがM6計画の失敗を意味することを悟ったが、人間どもに知らせるかどうか迷った。

M6計画とは地球上に発生する地震の規模を6以下に抑える計画である。200年程以前の仮説プレート・テクトニクス の誤りが修正され、大陸は上下に、海洋は水平に周期運動していることが知られてから50年近くになる。その周期は気が遠くなる程長い、プレートごとにごく僅か異っているため太平洋岸ではM8級の地震がしばしば起り、他ではほとんど発生しないことも明らかになった。また、周期の相違の原因はマンツルの対流速度の微妙な違いにあることも分った。

そこで、人間どもはトテツもないことを考えついた。つまり、丁度その頃完成した統一場理論によって可能になった核エネルギー・重力変換技術を利用して、マンツルの対流速度を制御する計画を立てたのである。

その目的のため、彼らの数十倍の知能と巨大な重力発生装置を組合せたシステムが造られた。それがK氏とL嬢である。彼らはシステムの暴走を恐れて感情は与えなかったが、意欲の減退を妨ぐために遊びの機能は与えた。それがK氏の寝不足の原因になり、M6計画の破局を知るキッカケになったのである。

K氏は、結局、彼が確認した事実を人間どもに知らせることは断念した。僅かな重力調整の誤差がプレートの共振を誘発し、その結果、日本列島のM10を超える地震が発生することは当初から予測されていたのだから。(神戸大学)

須磨定夫

6月6日、瀬戸大橋架橋及其の記念館のJSCA主催現場見学会当日、正に日本晴れは斯くと言う好天に恵まれた。

知人二人と新大阪駅で落合い、ひかりと電車を乗り継ぎ集合場所の倉敷に着いた。今回の見学会はPC部会員二十名余一般会員二十名余等計五十名余がバスにゆられ、先ず記念館工事現場へ向う。

現場事務所には中国支部会員も到着されており、普段は広いであろう現場会議室は立錫なしの様。

当現場会議室の窓越しに記念館を見ながら、当館の設計を担当された設計者構造設計者及現場監督から、短時間ながらも微細に説明がなされた。

当記念館は、S造2階建の本館を、太鼓橋デザインのPCアーチ(十四フレーム)で覆った新旧且つ洋折衷で立案設計されており、説明の内に其々、担当者の苦勞と新鋭技術を実践している生の気

魂が感じられ、大スパンの建物は、S造又はSRC造と安直に処理し、又設計ルートを過剰意識している昨今の小生には、警策の痛みが感じられた。

現場ではPCアーチの組立て中で、十四フレーム中四フレームが立てられており、現場継手等ディテール部が、目視できPC構造特有の突起部が意匠設計で完全処理されており、苦心が伺われた。

期同じく先月、軽量コンクリートとPC構造の某事務所ビル及び屋上プール付体育館の実地見学の招きを受けていたにも関わらず多忙の内に機をのがしていた故PC構造の進歩がより身近に感ぜられた。

今回の見学は備讃瀬戸大橋(道路鉄道併用橋)が含まれており再度バスで下津井へ向い、景勝地鷺羽山で昼食となった。鷺羽山より遠望出来る瀬戸大橋は二種のケーブル架橋及鉄骨トラス橋それにPC

コンクリート桁橋等大スパンに長スパンに適した架橋が一望出来たが、対岸の坂出まで遠々と続く巨大な橋群に一時目を奪われたのは全員と思われる。其の後大型はしげが我々の為に用意されており舟上見学に出帆、対岸寄のケーブル橋(当大橋群中最大スパン1200m余)までつづきに見学出来た。建築に比しスケールの大きさや各種タイプ及工法が単に筆舌され得ぬ程の大プロジェクトが実感された。大小小島を橋台橋脚の基礎とし利用しながら、物やわらかな瀬戸の風影の中を貫きんで構築されている最新技術の粋も如何程、周囲に同化され得るか、設計技術をしている者として、日本を造りし、いざなぎの命の杖先になり得るか考えさせられた。鷺羽山から見られた陽光に色めく青松、輝く白砂が印象に残った見学会であった。(一級建築士事務所エバート)

## ●会員の紹介

上田 昇

勤 鹿島建設(株)大阪支店  
建築設計部



入社後25年、勤務地は東京大阪東京そして大阪と変わるも、業務は構造一筋。規準類も少なくほとんど手作業の入社当時の設計のおおらかさ、充実感を懐しむ等老化の徴候。酒と釣りをこよなく愛す。酒ますます盛んも、釣りは体力の衰えに勝てずイワナからチヌに転向。

筒井 茂行

勤 (株)日本設計事務所  
大阪支社構造設計部  
趣 レコードを聴くこと。



バロック時代のものが多い。

これまでは、仕事が忙しいとか何とか口実をつけ、あまり歩いていませんでしたが、これではいかんだろうと思入会することになりました。なるべく時間を作って出かけようと思っておりますので、よろしくお願ひします。

小松 繁一

勤 (株)高松組 設計第一部  
趣 ソフトボール



構造を始めて十数年であるが経験が経つにつれてだんだんむずかしく感ずるのである。それが現実と理論とのギャップなのか構造設計そのものの未知数が多すぎるのかは、定かでない。ふとこのようなことを考える最近である。

青山 正巳

勤 (株)中村建築設計事務所



京都市の中堅建築設計事務所の唯一人の構造屋として頑張っています。周囲には、構造のことを専門的に話せる人が居ないため、ついつい「井の中のカラズ」に成り易いため、構造家の組織に是非参加したいと思っていました。

## ●編集後記

今年は暑さが例年より長く続いたようで、何となく疲れが残っているような今日この頃です。

19号もようやく発刊できました。本号では会員のアンケート調査を中心にもう少し記事を充実したかったのですが予定通りに記事が集まらず紙面が4ページになってしまった事をおわびします。

広報委員会では、毎号記事の企画について苦慮しております。会員皆様の投稿、要望、情報提供を今後共歓迎しておりますのでよろしくお願ひ致します。

発行 構造家懇談会関西支部事務局  
川崎建築構造研究所 TEL 231-3112